

令和4年度 学校関係者評価書(人権教育部)

鈴鹿市立 明生小 学校

NO. 4

| 評価項目   | 本年度の活動(具体的な手立て)と指標  | 学校関係者評価  | 今後の改善点   |
|--|---|--|--|
| 人権教育   | <p>①平田野中学校区の「人権教育カリキュラム」に基づき、各学年で人権学習に取り組む。また、学習したことを行事や授業参観・通信等で発信し、保護者・地域への啓発を行う。</p> <p>②年2回「学級集団作り研修会」を持ち、学級の人権課題や子どもにつけたい力・それに向けての取り組み等について話し合う。</p> <p>③人権教育に関わる研修会や研究授業を行い、教師の人権感覚や指導力を高めるとともに児童理解を深める。</p> <p>④児童一人ひとりの特性やニーズを把握するとともに、保護者との連携を図る。支援の必要な児童に応じた個別の教育支援を推進する(「個別の教育支援計画」作成率100%、内容の充実)。</p>   | <p>中学校区での小学校での取り組みや成長を共有してほしい。9年間の成長になるように意識をしてほしい。</p> <p>保護者との共通理解を大切にしてほしい。</p> | <p>・今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な場面で活動を中止したり制限したりする状況があったが、感染防止を徹底した上で、子どもたちの心をつなげる活動を行ってきた。今後も方法を工夫して、子どもたちをつなぐ活動を継続して実践していく必要がある。昨年度から本格的に始まった児童会主催の縦割り班活動を、今後も定着させていきたい。</p> <p>・来年度以降も、「人権教育カリキュラム」に基づいた人権学習を推進し、自分のことや友達のことについて考えていく機会を作っていく。また、友だちを大切に言葉のかけ方・関わり方についての学習を継続する。</p> <p>・教師も、人権感覚をみがき、指導の方法についての研修を継続していく。</p> <p>・今後も、学校だよりや行事の場、校内掲示物等を通じて、保護者や地域への発信を行ってきたい。</p> |
|  | <p>成果と課題(達成状況を含む)</p>   |  |  |
|  | <p>①〇全学年で、カリキュラムに基づいた人権学習を行った。また、児童会を中心に、年間を通して全校縦割り班活動を行ったり、特別支援学級の児童への理解を深めるための授業を全学年で実施したりした。これらの活動を通して、子どもたち同士をつなぐきっかけとなり、様々な個性を持つ友だちへの理解につながった。また、こうした取り組みを通信や校内掲示物(人権ポスター・多文化共生教育の取り組みなど)などで全校児童や保護者・地域の方に発信することができた。</p> <p>●日々の生活の中で、配慮の無い言葉がけや行動から、友達を傷つけてしまう出来事が、しばしば起きている。</p> <p>②〇1回目は各学年部で、2回目は全職員で行った。子どもの実態から見つかった人権課題を解決するための取り組みや成果・課題を意見交流する中で、児童についての共通理解を図り、仲間作りの方策を学び合った。</p> <p>③〇夏休みに、人権教育センターより講師の原先生をお招きし、教師の人権感覚の向上や部落差別をはじめとする差別解消のための取り組みについて研修した。今年度は、2・4・6年生で平田野中学校区人権公開授業を行い児童理解を深めた。また、教員向け人権教育指導資料を月に1度紹介し、人権問題についての知識を高め、実践に生かすことができた。</p> <p>〇国際教室や特別支援学級の授業公開週間を設定し、支援の必要な児童への理解を深めることができた。</p> <p>④〇家庭訪問は希望する保護者の家庭のみだったが、保護者に子育てアンケートを実施し、子どもへの願いや子どもの良いところを書いて提出してもらったことで、保護者と思いを共有することができた。</p> <p>〇支援ファイル「すずっこファイル」の作成が100%である。支援ファイルを作成することで、支援の方法が明確になり、支援を必要とする子どもの情報共有、引継ぎが職員間でできた。</p> |  |  |
| <p>評価項目</p> <p>本年度の活動(具体的な手立て)と指標</p> <p>学校関係者評価</p> <p>今後の改善点</p> |   |  |  |
| 不登校対応  | <p>①支援が必要な児童の現状を全教職員が情報共有する。</p> <p>②個々の児童に応じた支援を行う。</p>  | <p>個人情報的なハードルもあるが、支援の様子をもう少し委員に対してもオープンになれば、学校以外の者からの支援も得られるのではないかと。</p>           | <p>・不登校気味の児童に対して、今後も学校体制で支援するとともに、保護者との連携を図っていく。</p>   |
|  | <p>成果と課題(達成状況を含む)</p>   |  |  |
|  | <p>〇今年度より、児童生徒理解・支援シートを作成することになった。それにより、支援の方法が明確になり、支援を必要とする子どもの情報共有、次年度への引継ぎが職員間でできるようになった。</p> <p>●様々な理由から教室に入れない児童や不登校の児童がおり、支援会議を行ったり、スクールカウンセラーに話を聞いてもらったりするなどして、学校とつなげる取り組みを今後も行っていきたい。</p>   |  |  |
| <p>評価項目</p> <p>本年度の活動(具体的な手立て)と指標</p> <p>学校関係者評価</p> <p>今後の改善点</p> | <p>成果と課題(達成状況を含む)</p>   |  |  |